

第1回ミニセミナー「こみっと」開催 ～今回のテーマは「特別支援学校への就学・転学について」～

本校を会場に特別支援教育に係る第1回ミニセミナーを開催しました。地域の学校(園)から7名御参加いただき、渡部教育専門監の講話の後、グループに分かれて協議を行いました。

【講話より】

文部科学省(令和3年6月30日)「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」では、就学相談などで必要な判断・支援を行うときの基本的な考え方が記載されています。また、障害の状態に応じた教育的対応ということで、障害種ごとに「教育的ニーズ」が詳細に記されています。



特別支援教育における多様な学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校があります。一人一人の自立と社会参加を見据えて、子どもの教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる「学びの場」を考えましょう。

できるだけ早い時期から情報を集め、子どもに適した教育内容や環境、適切な支援について相談したり、学校見学をしたりして、学びの場を検討していくことが大切です。一人一人の発達の状態や特性等に応じ、その能力を最大限に引き出す学びの場を選択できるように、十分に見学や相談を重ねましょう。



学校見学や教育相談、体験学習などを通して、入学後の学校生活を具体的にイメージできるように、様々な学習形態を複数回経験することが望ましいです。

【協議より】

- ・保護者の理解を促すために、園の先生との信頼関係が大事。関係機関の協力を得ることも有効であった。
- ・特別支援学校と小学校の両方を見学し、就学先を決めるケースが多い。保護者は見学や体験時の子どもの様子や表情を見て就学先を考えているようだ。
- ・中学校に行くと教科担任になり、特別支援学級、交流学級で違う先生と過ごすなど小学校と環境が変わるが、話だけでは理解が難しいことが考えられる。特別支援学級や通常の学級で、見学と体験を複数回行うことで、イメージももちやすく、スムーズな移行につながる。





第1回ミニセミナー「こみっと」で使用した資料など、関連する情報に、下のQRコードからアクセスできます。ぜひ御活用ください。

- ・文部科学省では、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の中で、学級担任・担当の方に向けて、読んでほしい部分を参考資料として提示しています。



〔手引き〕



〔参考資料〕

- ・能代支援学校ホームページに、「小学部・中学部・高等部入学までの流れ」を掲載しております。御活用ください。本校では、就学にかかる教育相談の前に、学校見学をお願いしております。進路先の選択肢の一つとして本校をお考えの際は、お早目に御連絡ください。



〔入学までの流れ〕

ちよこっと支援

センター的機能で地域の学校（園）を訪問した際に、手先の不器用さについて話題になることがあります。そこで、今回の「ちよこっと支援」は、指先の動きについて取り上げてみました。

《素早く指先を動かすときに必要な力や動き》

- ・指先の動きには、「握り」と「つまみ」の二つがある。
- ・手首が上手に使えるようになると、素早く握ったりつまんだりできるようになる。
- ・上手に指先を使うには、触覚や視覚などの感覚も使う。

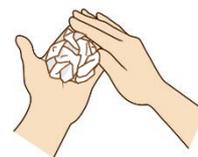
◎握りをうながす ～新聞紙丸め～

新聞を両手でできるだけ小さなボールになるように丸める。

丸め終わるまで持続的に「握りの力」が発揮できているか見ていく。

→指を使わずに手のひらだけで丸めてませんか？

→瞬間的に力をこめるのではなく、ゆっくり持続的に力を入れていますか？



指先の動きを大きく、「握り」「つまみ」に分けて観察すると、指先のどの動きが苦手なのか分かり、具体的な支援が考えやすくなります。

～「つまみ」については、次号で紹介します。～

◆参考文献 「発達障害のある高校生・大学生のための上手な体・手指の使い方」より

秋田県立能代支援学校

教頭 佐藤 圭吾 教育専門監 渡部 陽子 地域支援部主任 船山 真生

TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681

ホームページ <https://noshiroshien.ed.jp>

E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp